

令和3年度

学校評価総括表

奈良県立青翔中学校
奈良県立青翔高等学校

(別紙1)

令和3年度

学校評価総括表

奈良県立青翔中学校・青翔高等学校

学校運営計画 (4月)		総合評価
教育目標	<p>本校の教育は、法に定められた根本精神と、本県学校教育の指導方針に基づき、豊かな人間性や社会性を培うとともに、科学的な思考力と創造性を身に付け、科学技術の発展と進歩に寄与する心身ともに健全な人間の育成を目指す。</p> <p>(1) 豊かな知性と感性をもった思いやりのある人間性を育てる。 (2) 科学的な思考力を培い、自ら学び、自ら考える力を育てる。 (3) 個性の伸長に努め、意欲的な進路実現を目指す。 (4) 日々の生活の中から共生の精神を養い、幅広い社会性を育てる。 (5) 生涯にわたって自らの健康と安全を維持できる実践力を育てる。</p>	B
運営方針	<p>全ての教職員の持てる力を結集し、明るく元気でさわやかな学校づくりを目指す。そして、出会いと学びを大切にして、新たなものを自ら創造し(Create)、粘り強く挑戦し(Challenge)、様々なものをつなぐ(Coordinate)ことのできる生徒の育成を目指す。また、開校8年目の青翔中学校の円滑な運営と特色ある学校づくりに向け、県教育委員会とも連携して取り組む。</p>	
令和2年度の成果と課題	<p>本年度重点目標</p> <p>具体的な目標</p>	
<p>全国初の理数科単科高校として開校して17年が経過。この間、理数科の特色ある様々な教育活動の取組と成果が評価され、文部科学省から2期10年にわたってスーパーサイエンスハイスクールの指定を受けた。また、タイ国の姉妹校、王立サイエンスハイスクールとの共同研究および国際学会での発表など理数教育を中心に国際的な交流を進めてきた。</p> <p>S S H指定研究を軸として、学校設定科目「スーパー探究科学」の成果を各学会において発表し、各種コンテストにも積極的に参加するとともに、実績を着実に積み上げつつある。</p> <p>併せて規範意識の醸成、生徒会活動、課外活動、部活動など生徒の活動の活性化に向けての取組を引き続き推進しなければならない。令和3年度入試における進路実績は国公立合格者が34名中17名であった。</p> <p>令和3年度新たにS S H3期目の指定を受け、日本の未来を牽引する科学技術系人材の育成に向けて、中高一貫理数教育の特色を生かし、教科横断的な取組、地域との連携等に力を注ぎ、奈良県中南部の進学拠点校としての役割を果たす必要がある。</p> <p>また、併設する奈良県初の県立中学校の学校経営を、魅力と特色のある中高一貫教育校となるよう取り組まなければならない。</p>	<p>開校8年目を迎えた青翔中学校の存在価値と評価を確立するため、中高一貫教育校としての将来を展望した魅力と特色ある学校運営を目指す。</p> <p>県教育委員会指導の下、青翔中学校の施設・設備、教育課程、その他教育環境等を整えていく。6年間を見通した中高一貫教育の内容を明確にし、特色ある学校の教育情報を、ホームページの充実等を通じて積極的に発信し、小学生及びその保護者、県民等への広報活動を展開する。</p> <p>教職員は、教育専門職としての自覚のもとに、常に研鑽に努め、指導力の向上を図るとともに、各々のもつ特性を生かして、中高一貫教育を展望したカリキュラム・マネジメントの確立に努める。</p> <p>研修に対する意識の高揚を図り、公開研究授業を実施し、情報の共有化と共通理解を推進する。青翔中学校と青翔高等学校を一体としたリーフレットの作成、学校だよりの発行、ホームページの充実等による積極的な広報を展開する。また、教員の学会発表など外部での発表を推奨していく。</p> <p>自ら探究する力や伝える力を身に付けさせ、生徒が夢を実現できる学校づくりに努める。</p> <p>S S Hの取組の一環として、タイのサイエンスハイスクールとの交流を発展させる。</p> <p>地域との連携を一層充実させ「地域の学校」を目指す。</p> <p>中学校において、S S Hの取組をすすめる、生徒が理数系教科等に興味・関心を抱くようにする。</p> <p>探究活動の充実にも積極的に参加する(延べ120人)。また、本校独自の理数科教育システムを活用し、国公立大学及び難関私立大学理系学部への進学者20名以上を目指し組織的に進路指導に取り組む。</p> <p>タイのサイエンスハイスクールと共同研究を実施し、生徒・教員の交流に積極的に取り組み、タイ姉妹校で行われる「発表会」に参加する。また、国際学会にも参加する。中学校でのS S H事業の展開について実践し、発達段階に応じた取組を推進する。</p>	
	<p>生徒の自主性を育て、互いに認め、高め合う集団づくりに努める。豊かな知性と感性をもった思いやりのある人間性を育てる。</p> <p>人権を尊重し合える集団の確立と、自他を敬愛する心や公共心・道徳心、規範意識および国や地域社会を愛する心の醸成に努める。</p> <p>生徒一人一人の人権感覚・人権意識を高め、人間としての生き方や在り方を考えさせ、明るく温かい人間関係を醸成する。</p> <p>HR活動を充実させるとともに、学校生活のあらゆる場面で、基本的生活習慣の確立ときめ細かな生活指導を行う。</p> <p>全教育活動に道徳教育の観点を入れ、規範意識を高め国や地域社会を愛するための地域活動、ボランティア活動等にも積極的に参加する。</p>	
	<p>教科指導力を高め、ねらいを明確にした授業及び指導法の研究・実践に努め、生徒の基礎学力の定着と応用力の向上を図る。さらに、教科指導を通じ、科学的な思考力の育成に努める。</p> <p>家庭学習の定着を図り、基礎学力とともに高度な学力を計画的に育成する。土曜・長期休業中の学力向上講座、ステップアップ講座、学力補充講座等を実施する。課外活動(授業)「青翔アラカルト・ワークショップ」を実施し、科学的な思考力の育成に努める。また、教材研究、指導法や評価について指導主事の招聘や教育研究所の講座を活用し積極的に研修に努める。</p>	
	<p>日常の教育活動を点検し、学校・家庭・地域の連携をさらに深める。生徒の実態を的確に把握して、個に応じた適切な指導・支援に努め、健全な発達を促す。</p> <p>生徒が抱える問題の早期発見、早期解決に努める。生徒理解に努め潜在能力を発見し引き出し、実体験をとおして「努力」が「よろこび」や「やりがい」につながる成就感や達成感を体得させるとともに、探究心や向上心を育む。</p>	
	<p>学校経営・運営上のあらゆる場面から課題を見直し、その対策・改善に取り組む。</p> <p>部活動の活動状況や部員数等から、中学校中心の活動にシフトする。進路指導・教科指導法等、中高一貫教育に対応できる、教員の意識改変と「力」の育成に努める。</p>	

評価項目	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果		成果と課題（評価結果の分析）	改善方策等	学校関係者評価（結果・分析） 及び改善方策			
教 務	中高一貫教育の6年間を見通し、生徒の発達段階に応じた指導法と制度の確立を図る。	6年間の生徒の特徴や発達段階を視野に入れた学校行事の計画や新学習指導要領につながる効果的な教育課程の作成に取り組む。 生徒にとってより教育効果が高まるよう、学校行事の精選を図る。	A	A	SSH事業としてサイエンスイノベーターの育成を目指すため、中高一貫6年間を見通した学習に基づく教育課程の編成を行った。 中学校での先取り学習を考慮した学習内容と効果的な指導法について研究し、授業実践した。	編成した教育課程をより効果的に実践するために、教員の資質向上を目指した研修を行い、授業改善を進めなければならない。	中高一貫の6年間を見通した学習とSSHに基づいた理数科教育を二本立てとした教育課程の編成に取り組み、選択科目の設定等の工夫により、生徒の希望に対応した幅のある教育実践を進めている点が評価できる。			
		先取り学習等も含めた中高一貫の効果的な指導法の確立に取り組む。	A							
	ねらいを明確にした授業を実践し、思考力・応用力を高める指導に取り組む。	授業公開を行い、自己の授業を振り返るとともに、他の教員の授業を参観し、研修を深め、指導力の向上に取り組む。	A	A				年2回の授業公開期間による事例研修を行った。授業公開期間外でも授業見学する様子が見られた。 ルーブリックを取り入れたシラバスを活用する授業を全教科・科目において実施することができた。新学習指導要領の観点を取入れ、評価として取り入れた。	ルーブリックを取り入れたシラバスを用いて、生徒の意欲を喚起する授業実践の研究が進んでいるので、これらの成果を共有し全校体制で進めなければならない。	年2回の授業公開に加えて、評価やカリキュラム・マネジメントについての職員研修を随時行っている。観点別評価やルーブリックを取り入れた評価をもとに、生徒の学習への意欲を高める実践に取り組んでいる。
		シラバスを活用し、日々の授業のねらいを明確にし、分かる授業を実践し、指導法や評価についての研修を深めるとともに、情報の共有化と共通理解を図る。	A							
	生徒の基礎学力の定着を図り、学習意欲を高め、主体的に学習する力の向上を図る。	個別指導や学力補充講座等を実施し、きめ細かい指導により、生徒個々の基礎学力を高める。	B	B				長期休業中の集中授業や学力補充講座を行い、基礎学力の向上に努めた。振り返りシートの活用や生活アンケートの実施により、生徒の様子を把握し、指導に活用した。アンケートによると平日少しでも学習する生徒は、中学生で90%、高校生で89%であった。	主体的に学習する態度を育成するために、生徒の実態を把握し、生徒に学習への興味・関心を高められる授業の研修を進め実践しなければならない。	
		生徒の実態を把握し、ルーブリックによる評価をもとに、主体的に学習する態度を養う。毎日、家庭学習をする生徒が95%以上となることを目指す。	B							
生徒指導	現在取り組んでいる全校体制による生徒指導をより一層、強化・推進し、基本的生活習慣の定着と規範意識の積極的啓発を図る。その結果として、生徒自身が誇りをもてる学校づくりを目指す。	校門指導・昇降口指導・校内巡視などを毎日行い、生徒とのコミュニケーションを図る中で、生徒理解に繋げ、規範意識の高揚を図る。	A	B	教員の働きかけにより、校門であいさつをする習慣は身につけているものの、長引くコロナ禍の状況下で、マスクを着用し、大きな声を出すことが制限されているために元気な声を出す生徒は少ないように感じられる。また、このような状況により、生徒が集団で集まり、同じ話を、集団で聴くという機会がないため、クラスには所属しているものの、学校に所属しているという機運を醸成することが難しい1年であった。集会や集団行動によって培われていく協調性や他者への配慮、時間厳守などを身につけるためのチャンスが少なくなってしまう。	このコロナの状況下で即効性のある改善策は簡単に見当たらないが、可能な限りの学校行事を有効活用して、生徒を活性化させるような工夫が必要である。また、全校での集まりは無理だとしても、学年集会などを活用して教室だけでは身につけられない左記のような社会性を獲得できるようにしていきたい。	日々の校門指導や昇降口指導、校内巡視等を行う中で、全教職員が生徒とのコミュニケーションを通して生徒理解を図り、規範意識の向上に取り組んでいる。今後は、取組のさらなる充実を期待する。 今年度は、女子のストラックスを導入した。生徒会と連携しながら、制服の着こなし等の話し合いを良い方向で進めることができた。 生徒の実態を年間2回実施したアンケートでよく捉え、教職員間で共通理解のもと、連携協力して生徒指導に取り組んでいる。			
		時間厳守の精神を徹底し、遅刻や入室遅れの絶無を目指す。挨拶を励行し、元気できびきびした生活習慣の確立を図る。	B							
		様々な行事や集会等の機会を通じて、帰属意識と愛校心の高揚を図る。	B							
	中1から高3までの学年の幅にわたる生徒が安心して登校し、生活できる学校を目指す。	カウンセリングマインドを持って、生徒の悩みを積極的・共感的に受け止め、これに応える指導や助言を与える。人権教育部、養護教諭、及びスクールカウンセラーとの連携を密にして、早期発見・早期対応に努める。 教員と生徒の人的ふれあいを大切にし、	B	B	今年度、1学期末と2学期末に実施した「こころと生活等に関するアンケート」の結果を基に、担任の先生方に詳細な聴き取り調査を行っていただいた。その前には専門家により、各クラスの生徒に関する詳細な分析をしていただいたことが効果的であった。SNSに関するトラブ	生徒が受け身で、特段何も考えずとも日常生活を送ることができてしまった。生徒が自ら考え、主体的に考えることができるような場面や、きっかけを学校行事のみなら	いじめ等生徒間トラブルに関しては、教職員による観察や生徒とのコミュニケーション、アンケート等による積極的な把握に努め、防止及び指導に取り組んでいる。 薬物の乱用防止や交通安全、ネット犯罪、制服の着こなし等の講			

		生徒一人一人の個性・特徴を生かし、大切に にして、内面に迫る指導を心掛ける。	A			ルも数件報告され、指導を重ねたが、先 をを読む力、想像する力が明らかに欠如し ている様子も見受けられた。	ず、授業の中で小さな種 をまくことができればい いと考えている。	演会をもつなど、計画的に規範意 識の高揚を図っている。
保健体育	コロナ禍における 現在の社会の情勢を 見極め、体育活動 を通して健康の意義 を理解し、自他の健康 の維持増進を目指し、 体力づくりを基盤に 「生きる力」を育む。 授業を通して、学 校生活・行事への積 極参加と主体的な行 動を促す。	教職員自らが自他の健康の維持増進・体力 づくりの必要性を共通理解し、授業の安全性 を遵守しながら積極的に創意工夫に努める。	A	B	B	自らの体力の現状を理解しより一層の 体力の向上を目標としてITを使用しな がらの授業形態を模索した。	制約のかかる中で、生 徒に体を動かすことの楽 しさ・大切さを伝えるた めにITの導入などに工 夫していきたい。また、 自他の健康を守るため職 員・生徒ともに感染防止 策をとりながらの活動の 中で、いかなる状況下 のもとでも自他の健康と安 全を守れるよう授業や学 校行事だけでなく、普段 の学校生活の中で指導を 行っていきたいと考える。	体力測定の結果が良くない。授 業や行事を工夫して、体を動かす ことやスポーツの楽しさを体感さ せてもらっているが、中学生から 柔軟性を育み、体力と運動能力向 上をさらに推進してもらいたい。 コロナ禍の中、トレーニングや ストレッチ等の動画配信を行った ことは評価できる。 避難訓練等はできなかったが、 非常時に適切な対応ができるよ う、日常の安全管理に努めている。 欠席者検診の機会をつくったこ とにより、ほぼ全員の生徒が内科 検診等、健康診断を受診すること ができた点は評価できるが、100 %実施をめざすべきである。また 色覚異常の早期発見のため色覚検 査の全員実施を検討してもらいた い。 基本的な生活習慣を確立させ、睡 眠時間を確保させ、心身ともに健 康な生徒の育成に努めてもらいた い。
		運動・スポーツに主体的に取り組むこと により、体を動かすことの大切さや喜びを体感 するとともに、自らの健康を維持できる実践 力を育てる。また、社会の一員としての役割 を意識させ、可能な限り、地域の催しやボラ ンティア活動への参加を促す。	B			本年度も昨年同様コロナ禍の中で体育 的行事の中止や地域の催しへの参加やボ ランティア活動を行う機会が持てなかつ たことが残念である。部活動においては 感染防止策をとりながら活動を行えた。		
		中高一貫教育の特性を踏まえ、集団での 「個」を自覚させ、協調と責任ある行動をと れるよう中学生と高校1年生の集団行動に重 点を置く。また、高校2・3年生においては リーダーの育成を目指し、主体的かつ能動的 な取組を促す。	B			3密を避けながらではあるが体育の授 業だけでなく通常の学習活動や部活動等 を通して集団での規律ある行動をとるこ とができるようになった。しかし、グル ープ活動や学年をまたいで活動が少な くリーダーの育成が不十分となった。		
保健体育	コロナ禍において、 保健活動を通して、 「健康」であること の大切さを自覚し、 自らの健康を守り、 改善していく資質と 能力を育む。	定期健康診断において、100%の受診率を 目標に、校医と連携し日程や時間帯の調整を 図り、受診できる環境づくりに努める。	A	B	B	身体測定、歯科検診、尿検査について は不登校傾向の生徒以外、ほぼ100%健 診を受けた。健診中の感染対策にも注意 を払うことができた。	感染対策が教職員生徒 に定着し、校内での感染 拡大は防止できているの で、今後とも気を緩めず 継続したい。また、食事 や睡眠など基本的な生活習 慣の確立により、感染症 予防を含めた健康の保持 増進につながるよう、指 導していきたい。	
		生徒の健康保持・増進のため、生活実態調 査を行うとともに、保健だより等により、健 康管理の重要性の周知や、必要な情報提供を 行う。個別指導の充実を図る。	B			生活実態調査では、朝食を食べない生 徒が各学年一定数みられる。学期末には、 養護教諭も保護者と面談し、個別管理が 必要な生徒の情報を更新している。		
		コロナを含めたあらゆる感染症への対策を 徹底する。また感染者が出た際に迅速に対応 できる体制づくりを行う。	B			昨年度以上に感染症対策を強化した。 コロナ陽性の生徒が出たときの校内体制 を作ったが、急激な感染状況の悪化への 対応が難しかった。		
人権教育	様々な人権問題に ついての認識を深め、 より充実した実践に 努める。 生徒が精神的な成 長をするような関わり をする。	様々な人権問題についての研修を深め教職員 が共通理解を持って人権教育に取り組む体制 を構築する。年1、2回の職員研修を実施し、 校外の研修にも積極的に参加する。	B	B	B	校内の職員研修は、「自殺防止につい て」を9月に実施。県高人教研究大会(11 /5)で本校が「地域とともに進める『探究 科学』」と題して発表し、好評価を得る。	様々な課題に適切に対 応するために、更に研修 を深める。人権HRは時 勢にあった内容も取り入 れて計画をする。進路部 や生指部など他分掌や教 科とも連携しながら人権 教育の充実を目指す。	中高の6年間を見通した計画的 な人権教育により、生徒の人権意 識が向上している。さらなる取組 の充実を図ってもらいたい。 担任、中高の統括とスクールカ ウンセラー、コーディネーターな どの外部支援の活用が図られてお り、生徒の悩みや問題等に適切に 対応できている。今後も教職員の 共通理解を図りながら、対応力の 向上に努めてもらいたい。
		生徒の実態に即した人権LHRや講演会を 企画・立案する。生徒が自他を尊重し、より よく生きる態度を養うために教科と連携す る。翔人研等の生徒の活動の活性化に努める。	A			「澁刺と生きよう」と題して、精神科 医による講演会を実施。中学の「道徳」 と連携し人権問題に目を向け、作文を書 かせコンクールに出品。7名入賞。		
特別支援教育	支援が必要な生徒 を支える学校の体制 づくりに努める。カ ウンセリングの充実 を通して、的確な支 援と適切な支援 に取り組む。	生徒一人一人の実態や状況を把握し、それ ぞれの生徒の成長を促す支援に努める。課題 を抱える生徒には、早期に個別の対応を関係 者と連携して進める。 スクールカウンセラー、担任、家庭、外部 機関などと連携して、支援を必要とする生徒 等のケアに努める。	B A	B	B	不登校、家庭状況、学習面等、生徒が 抱える課題を把握し、担任・スクールカ ウンセラー・県教委・子ども家庭相談所・ 医療機関等と連携し、個々の生徒に適切 な支援ができるように努めた。個別の指 導計画を示すなど、教員の共通理解を図 りながら生徒の成長を促す。	不登校や発達障害等 については専門的な外部機 関との連携を深めながら 対応する。配慮を要する 生徒の具体的な指導につ いて、教員間での連携を 図る。	
文化祭を通して文	文化委員がクラス の中心となり、まと							「コロナ禍だからできる文化祭」を数 次年度もコロナ禍の状

文化図書	化教育の充実と活性化を図り、クラスの団結力を一層強める。	いく存在となるよう文化委員会の活性化を図る。また、生徒の意見を企画・運営に反映させながら、生徒が作り上げる文化祭を目指す。	A	A	A	週間にわたり昼休みに動画放映形式で実施、展示も場所と期間を決めて実施した。パンフレットを教室掲示とした。	況に合わせた文化祭の発表をする。コロナ前の形態には戻らず、新しい形態を模索することになると考えられる。図書室では、引き続き感染対策を徹底する。	は、昨年のノウハウを活かし、より充実・発展した。読書好きな生徒が多く、読書感想文や感想画コンクール等で優秀な成績を収めている。今後も継続して読書指導に力を入れてもらいたい。通学路清掃が実施できていないが、実施方法を工夫し、それに代わる美化活動を検討してもらいたい。
	読書指導の充実を図る。	新入生への図書室オリエンテーションを実施する。年9回の『図書室だより』の発行等、図書委員会活動の活性化を図る。図書室で感染症対策を徹底する。「テーマによる展示コーナー」を年10回設け、生徒の関心を高める工夫を行う。	A			図書室オリエンテーションをパワーポイントも活用して実施した。『図書室だより』を年9回発行した。アクリル板で図書室での感染症対策を徹底した。「テーマによる展示コーナー」を年12回設け、生徒の関心を高める工夫を行った。		
環境整備	自主的な清掃活動を推進し、生徒の美化意識の向上を図り、学校環境の美化を推進する。	日常の学校生活で、ゴミの持ち帰り等のゴミの減量化や分別を徹底する。リサイクル運動に取り組み、環境美化の意識を高め、快適な学校環境の実現を図る。	B	A	A	活動量が少ないため、ゴミの量が昨年度並みであった。日々の清掃は熱心に取り組めたが、やり残しや、清掃回数の少ない箇所もあった。	次年度はクラス数が12クラスに戻るので、清掃分担箇所も変更する。「花いっぱい運動」も継続する。	
		年2回の「花いっぱい運動」を通して、生徒の美化意識の向上を図り、地域との関わりを深める。	A			6月と10月に生徒による定植を中高の日を分けて実施した。		
広報活動	適切な広報活動を展開する。	塾などを訪問し、全職員の協力のもと、県内の小学生・保護者等に本校の特色や活動内容をよりよく知ってもらう取組を重ねる。	A	A	A	コロナ禍のため訪問をせずに資料を郵送した。本校の特色を伝え、受検者数の増加につながった。	コロナ禍の状況を把握しながら、具体的な広報活動を行う。	これからも、ホームページ等を活用して青翔中・高の実績や活動を広くアピールしてもらいたい。
		パンフレット等の作成、ホームページの更新などにより広報活動を活性化させる。	A			パンフレットを作成し、広報活動の資料とした。		
渉外	育友会活動の充実と活性化を図る。	年2回の広報紙『翔揚』を発行して、広報活動の充実と研修会等の活性化を図る。保護者との連携を密にしながら、行事への積極的な参加を促進する。これにより、保護者と教職員の協力体制による教育活動を実践する。	A	A	A	年2回『翔揚』を発行した。育友会総会を书面決議で行った。育友会家庭教育部の研修をスクールカウンセラーの協力を得てオンラインで実施した。活動が十分にできず、行事費等の一部を図書カード購入に充て、生徒に配った。	保護者や卒業生が学校に集まる機会が少なくなった。育友会や同窓会でコロナの実情に合った活動を行う。育友会の行事費等は、図書の寄贈など生徒に還元できるような使い途を考える。	コロナ禍のため、一堂に会しての総会などを実施できなかった。実情に応じて育友会や同窓会の活動も実施方法を再検討すべきである。
	同窓会(まほら会)活動の充実と活性化を図る。	総会と評議員会を隔年実施し、まほら会評議員とクラス幹事との連携を強め、卒業生の同窓会行事への積極的な参加を促し、同窓会活動の充実を図る。	B			6月に評議員会を予定していたが、開催されなかった。「まほら賞」を5人の高3生が受賞した。		
国際交流	将来グローバルに活躍できる理数系人材の育成のため、校内外における国際交流プログラムを推進する。	海外研修を年3回実施し、視野を広げ、国際人としての素養を身に付ける機会とする。タイ姉妹校との交流プログラムを通して、相互理解を深める。訪問と受入を年1回ずつ、オンライン交流を年3回実施し、理数科教育のさらなる発展を目指す。フランスなどから年数回の訪日団の受け入れを行い、校内における英語での国際交流プログラムを実施する。コロナ禍の場合、相手校と相談しながらオンライン交流等を進める。	B	B	B	タイの姉妹校との交流を11月にオンラインで行い、中2の生徒が学校紹介をした。タイ、フランスの学校とは連絡を取り合ったが、交流を発展させることができなかった。	次年度も海外の相手校と連絡を取り合っ、可能な範囲での交流を実施したい。今できることは、これまで築いてきた良好な関係を途絶えさせないように努めることである。	コロナ禍の中で例年通りとは行かなかったが、WEBを用い、活発に交流が行われた。今後も、様々な方法を検討してもらいたい。
ICT	ICTの環境整備を通して学校業務の円滑化とICT教育の活性化を図る。	校務用端末やメールの活用方法などICT全般について、職員研修などを通じて周知徹底し、これらを活用した学校業務の円滑化を図る。	B	A	A	教員の校務用端末については、個々のトラブルには対応したが、全体への周知を行うことはできなかった。中学生の生徒の一人一台端末に対応したICT活用の研修会を実施した。また、休校・分散登校に伴うオンライン授業においても各教室の設定や方法について整備して、大きなトラブルなく実施すること	職員が多忙な中で研修の回数を増やすことも難しいので、校務用端末の扱いについてはマニュアルをうまく活用することを目指す。次年度より高1でBYODが始まるのでその環境整備にも注力	高校においてもBYODが始まるということで、普段の授業からICTを活用することが望まれる。学校内での運用方法について整理したうえで、積極的かつ効果的に活用して頂きたい。
		GIGAスクールにおける生徒端末の運用方法についての職員研修を行い、円滑な運用を図るとともに、各教室のICT機器やデジタル教材の準備を遅滞なく行い、ICTを活用した教	A					

		育の活性化を図る。			ができた。	する必要がある。	
進路指導	個々の生徒の個性の伸張に努め、意欲的に進路実現を目指す主体的な学習習慣を身に付けさせる。	学力推移調査・スタディサポート等により生徒の学力・学習習慣を的確に把握し、その向上を図る。	B	B	ジェネリックスキルを測定する「学びみらいパス」を中1・中3・高2で実施。また、スタディサプリの到達度テストも中3・高1で活用し、個別に生徒の状況把握をすすめた。様々なアセスメントの結果をいかに効果的に活用するかが課題である。	来年度は3年生が2クラスになり、目指す進路も多様になるが、各種のアセスメントや学習結果の現状を、生徒と教員が共有し、強み弱みを捉えた上で、進路発見・進路実現の取組を進めていく。	中・高6年間を見通した計画的・組織的で細やかな進路指導が行われており、成果が出始めている。今後も、進路実績をHP等を用いて広く周知してもらいたい。
		個々の生徒の状況に応じた支援により、国公立大学及び難関私立大学への進学者数20名以上を目指す。	B				
進路指導	理数科の特色を生かし、中高6年間を見通したキャリア教育を推進し、将来の進路を展望させる。	中高間や学年間で密接に連携をとりながら、発達段階に応じた6年間のキャリア教育を推進し、各生徒が早い段階で自分の進路を定めていけるよう個別の支援を一層進める。	A	B	中学生・高校生へのキャリアセミナーとして地元企業の協力により研究者の方の講演会(12/1)および企業で活躍されている方の講演会(12/23)を実施した。また中3生への学部選びの講演会(11/13)や、高1・2生への卒業生進学講話を実施し、それぞれ進路を考える機会にできた。	来年度から高校で進行していくBYODでの1人1台端末の活用も含め、多様な情報収集と情報提供を行い、小規模校である強みを活かした個々の生徒のニーズに合わせた支援を一層進めていく。	中高一貫教育校、SSH指定校にふさわしい進路実現を期待したい。特に、理系学部への進学者増を望む。また、医学部や薬学部に進み、地元に貢献するような人材を期待したい。
		生徒の進路希望を的確に把握し、情報過多にならないよう必要な進路資料を取捨選択し、整理した上での提供に努める。	B		進路希望調査を参考にして、上級学校などから送られてくる膨大な資料から、進路室に配置する資料を絞っている。進路室の活用する生徒をもっと広げることが課題である。	地域と連携した講演会や卒業生講話は継続していきたい。	進路目標をもてない生徒への支援について、地元企業の協力を今以上にすすめながら、効果的な方法を検討いただきたい。
理数 SSH部	全教科・科目において、探究の過程を重視した学びとSTEAM教育の視点に立った教科等横断的取組を実践するとともに、SDGsを活用し、生徒自らが設定した課題に主体的に取り組むことができる支援を行う。	探究的な学びを全教科・科目に展開することで、生徒の主体性と創造的思考力、総合的判断力、コミュニケーション能力を年度当初よりも向上させる。	B	B	生徒対象の意識調査によると、生徒の主体性は86%から79%に低下したが、創造性は66%から71%に増加した。コロナ禍による行動制限が理由の1つと考える。	相互評価により生徒間で互いの成長を実感できる機会を多く設けるなど、改善を行いたい。	SSH第Ⅲ期目がスタートし、教科間連携が進んでいることが伺える。コロナ禍により、制限される学習活動もあるが、今後も生徒の総合的な学力向上を目指して、事業のさらなる改善・工夫を期待する。
		STEAM教育の視点に立った教科等横断的な取組を通して、課題を特定し、モデル化によって見通しを持ち、創造的思考力と解決方法をデザインする力を持った生徒数を年度当初よりも増やす。	B		新SSH科目「情報分析科学」では、コンピュータを活用してデータを分析し、結果に基づいて考察できると答えた生徒が、事後には有意に上昇しており、総合的判断力が育成できたといえる。	中学校「統計とプログラミング」の授業と連携し、データ分析についてより深い手法を指導できるように発展させたい。	
		自治体や地元企業と連携し、SDGsを活用した地域課題の解決方法を提案することを通して、生徒の総合的判断力とコミュニケーション能力を向上させる。	B		地域課題の解決といった活動を通して、研究発表や事前の議論の成果が見られた。社会と自己との結びつきに対する意識を高揚させることが課題である。	来年度は御所市だけでなく、連携先を広げ、生徒の多様な興味・関心に対応できるようにしたい。	
理数 SSH部	中高一貫6年間を見据えた体系的な理数教育カリキュラムを実施し、科目や課外活動で異学年集団の学びを実践することにより、サイエンスイノベーターに必	中高一貫6年間を見据えた体系的な理数教育を展開することで、生徒の理数に対する興味・関心・意欲を一層高め、サイエンスイノベーターに必要な創造的思考力や総合的判断力を向上させる。	B	B	次年度からの新学習指導要領実施に向けて、全教科・科目で探究的な学び、ICTを活用した学びが充実した。反面、コロナ禍による生徒の学習へのモチベーション低下が危惧される。	体系的な理数科教育及びSSH事業の推進に、より一層、全校体制で取り組めるようにしたい。	SSHの取組が全校に浸透してきたことが伺える。奈良県南部の理数教育拠点校としての使命を十分に果たしてくれることを期待する。
		国内外の大学や教育機関との継続的な連携を行うことで、より高次の課題研究を実現するとともに、各種学会ジュニアセッション等	A		各種学会ジュニアセッションでの発表生徒数(延べ)は、昨年度が49名、今年度は84名と増加し、コロナ禍以前の人数	来年度は、進路保障の面からも更に参加人数の増加を図りたい。	

	<p>要な資質・能力を身に付けた生徒を育成する。</p>	<p>での発表生徒数を増やす。 SSH科目や課外活動において、主体性の育成と中高の連携による異学年集団の学びを推進することで、生徒の科学的リテラシーを向上させるとともに、各種科学オリンピック等への参加生徒数を増やす。</p>	B		<p>に戻った。 各種科学オリンピック参加者は、昨年度の38名から68名に倍増した。今年度は、異学年集団の取組として、探究科学研究会コア・メンバーを組織したが、コロナ禍により十分な活動が行えなかった。</p>	<p>探究科学研究会コア・メンバーの生徒が核となり、探究活動や「科学の甲子園」などで学年を越えた取組を推進したい。</p>	<p>げていることが評価できる。より一層の活躍を期待する。</p>
	<p>SSH第I期からの成果を普及し、地域の理数教育拠点としての役割を果たす。</p>	<p>本校のSSH事業の成果を県内外の教育機関に還元するため、各種生徒発表会や小学生対象の科学イベント、教員向け研修会をそれぞれ年1回以上実施する。</p>	A	A	<p>小学生対象の科学イベントでは、昨年度を上回る参加者があった。教員向けのシンポジウムについても、小学校から大学まで60名の参加があり、成功であった。</p>	<p>来年度は、コロナ後の実開催も視野に入れて、参加者の更なる増加を図りたい。</p>	<p>SSHの取組の他校への普及が進んでいることが評価できる。各行事も、本校の取組を小学生に紹介する良い機会となっている。</p>
中学 第1学年	<p>基本的な生活習慣を確立し、集団の中で目的をもって活動できるようにする。</p>	<p>全員がしっかりと挨拶ができるようになる。 「早寝・早起き・朝ごはん」をモットーとし、健康な体をつくり、十分な睡眠と朝ごはんをしっかりと食べて登校できるように指導する。 規則正しい生活を送り、欠席、遅刻をしないように指導する。遅刻は学年全体で年間100回以下にする。</p>	B	B	<p>積極的に挨拶ができる生徒が増えてきている。 朝食を毎日食べている生徒は80%で、昨年(84%)と比べて少し低下している。 多くの生徒が規則正しい生活を身に付けている一方で、遅刻は2学期末で1組が74回、2組が48回であり、目標を達成できなかった。 不登校の生徒もおり、特定の生徒の遅刻、欠席の多さが目立っている。</p>	<p>規則的な生活習慣を確立するために、家庭とも協力して指導を継続する必要がある。 集団の中で自分の役割を責任をもって果たし、より良い集団を作っていくことができるように引き続き指導する必要がある。特に、通学マナーやSNS上でのトラブル防止に向けて継続的な取組が必要である。</p>	<p>家庭や関係諸機関と連携しながら、よりよい集団づくりに取り組んでいる。集団行動のルールやマナーを身に付け、落ち着いた学級集団となっている。 継続的な指導により、規則正しい生活習慣に基づいた学習習慣が定着してきている。</p>
		<p>クラスの役員、係の自覚をもち、全体のために努力する態度を養う。 掃除に真面目に取り組む態度を養う。自ら考え工夫しながら、教室や学校全体の美化に取り組む。 クラスや高校生との関わりの中で集団生活のルールやマナーを学ぶ。</p>	A		<p>クラスや学校全体のために努力する意識が芽生えてきた。学校への満足度も高く、生活アンケートでは、88%の生徒が満足と答えている。 様々な経験を積みながら、集団生活のルールやマナーを学び、自分たちで品格を高める努力ができるようになった。</p>		
	<p>将来について考え、目標をもって、計画的に学習に取り組む態度を養う。</p>	<p>授業を中心に据えて学習する習慣を付けさせる。 授業の復習を大切にするように指導する。 宿題や課題等の提出を徹底させる。</p>	A		B	<p>生徒の将来を見据え、学年全体で読解力の育成やタイピングのスキル向上の活動に継続的に取り組み、生徒の意欲・関心を高めた。 学校の学習ペースについてくるのが難しく、学習課題等の提出が遅れる生徒の固定化が懸念される。 家庭学習の時間が不足し、基礎学力の定着が不十分な生徒も多いので、家庭での学習時間充実に向けて指導したい。 学力推移調査のGTZは、国語と数学がB2、英語がB3となり、各教科とも目標を下回った。ただ、総合成績でSランクの生徒も4名(昨年と同数)おり、上位層は頑張っている。</p>	<p>基礎学力向上のため、保護者の協力を得ながら、家庭での学習習慣を定着させることが最重要課題である。 将来に向けて目的を持って自ら学習に取り組むように指導するとともに、宿題や課題をきっちりこなすように粘り強く指導を続けたい。 学習ペースがゆっくりな生徒に対する個別対応も必要である。</p>
	<p>基本的な生活習慣と礼儀作法を身に付け、集団の中で互いに助け合い、高め合うことができるようになる。</p>	<p>「早寝・早起き・朝ごはん」をモットーとし、健康な体をつくり、十分な睡眠と朝ごはんをしっかりと食べて登校できるように指導する。 しっかりと挨拶ができ、場に応じた言葉遣いで話すことができるようになる。 規則正しい生活を送り、欠席、遅刻をしないように指導する。遅刻は学年全体で年間100回以下にする。</p>	B	B	<p>様々な体験や経験を積み、場面に応じた言葉遣いができるようになった。 朝食を毎日食べている生徒は91%で昨年(71%)と比べて大きく向上している。 多くの生徒が規則正しい生活を身に付けている一方で、遅刻は2学期末で1組が120回、2組が27回であり、目標を達成できなかった。 不登校の生徒もおり、特定の生徒の遅刻、欠席の多さが目立っている。</p>	<p>規則的な生活習慣を確立するために、家庭とも協力して指導を継続する必要がある。 集団の中で自分の役割を責任をもって果たし、より良い集団を作っていくことができるように引き続き指導する必要がある。</p>	<p>今後も、基礎学力の定着に向けて家庭学習を習慣化させる指導を家庭の協力を得ながら、粘り強く続けてもらいたい。 生徒の学力をさらに伸ばせるよう、指導の一層の充実を期待する。</p>

中 学 第 2 学年		<p>クラスでの自らの役割をしっかりと果たし、クラスや学校のために協力できる態度を養う。クラスの仲間を大切にし、互いの個性を認め合い、高め合える集団づくりを行う。</p> <p>学校のルールを守り、上級生としてふさわしい態度で学校生活を送らせる。</p>	A		<p>2年生になり随分と落ち着いて行動できるようになってきた。</p> <p>様々な行事の中で、集団行動のルールやマナーを習得してきている。その一方で、公共心や他者に対する寛容の心を身に付けなければならない生徒もいる。</p>	<p>安心安全で充実した学校生活を送ることができる集団になるよう継続指導していく。</p>
	主体的に学び、計画を立てて学習する姿勢を身に付けるとともに、思考力や表現力の基礎を養う。	<p>授業の予習、復習を徹底し、基礎学力を定着させる。</p> <p>宿題や課題等に計画的に取り組ませる。</p> <p>宿題や課題等の提出を徹底させる。</p>	A	B	<p>探究活動に積極的に取り組み、研究テーマについて主体的に調べ、研究成果をまとめて発表する力を伸ばした。アンケート結果においても、90%以上の生徒が探究活動に意義を見出している。</p>	<p>強みである探究活動への意欲・関心を更に伸ばすとともに、教科の学習にもその積極性を生かして基礎学力のアップにつながるよう学習の質の向上を目指したい。</p> <p>コンテストや検定に積極的にチャレンジさせ、目標や向上心を持って日々の学習活動に取り組ませたい。</p>
		<p>キャリア学習を通して、将来の進路目標について具体的に考えさせるとともに、自らの考えや意見を適切に表現し、伝える基礎力を養う。</p> <p>日々の家庭での学習内容を充実させるため、毎日1時間半以上の学習を習慣化させる。</p> <p>学力推移調査では、各教科ともG T ZのB1以上を目指す。</p>	B		<p>家庭での学習時間が1時間未満の生徒も多いので、家庭の協力も得ながら家庭学習の充実に向けて指導を継続したい。</p> <p>学力推移調査のG T Zは、国語と英語がB2、数学がB3で目標に届かなかった。併設の理数科高校に進学することを踏まえ、特に数学の学力向上が急務であるとともに、総合成績でSランクの生徒が1名しかいないので、上位層の底上げが必要である。</p>	
中 学 第 3 学年	<p>集団の中で互いに助け合い、高め合うことができるようになる。</p>	<p>全員がしっかりと挨拶ができるようになる。</p> <p>「早寝・早起き・朝ごはん」をモットーとし、健康な体をつくり、十分な睡眠と朝ごはんをしっかりと食べて登校できるように指導する。</p> <p>規則正しい生活を送り、欠席、遅刻をしないように指導する。遅刻は学年全体で年間100回以下にする。</p>	B	B	<p>心の成長がみられ、敬語や挨拶だけでなく、場面に応じた対応ができるようになってきた。</p> <p>多くの生徒が規則正しい生活を身に付けている一方で、遅刻は2学期末で1組が114回、2組が81回であり、目標を達成できなかった。</p> <p>不登校の生徒も複数おり、高校進学に向けて心配な部分が多い。</p>	<p>高校進学に向け、基本的な生活習慣を確立することを最優先課題とし、家庭とも協力して指導を継続する必要がある。</p> <p>集団の中で自分の役割を責任をもって果たし、より良い高校生となれるように引き続き指導する必要がある。</p> <p>安心安全で充実した学校生活を送ることができる集団になるよう継続指導していく。</p>
		<p>クラスの役員、係の自覚をもち、全体のために努力する態度を養う。</p> <p>クラスの仲間を大切にし、互いの個性を認め合い、高め合える集団づくりを行う。</p> <p>学校のルールを守り、上級生としてふさわしい態度で、学校生活を送らせる。</p> <p>中学校の最高学年としてリーダーシップを発揮し、学校生活のあらゆる場面で中核的な役割を果たすことができるように指導する。</p>	A		<p>中学校の最上級生として、様々な行事の中でリーダーシップを発揮できるようになってきた。学校生活を通して集団行動のルールや社会マナーを着実に習得している。</p> <p>クラス内でそれぞれの役割をしっかりと果たし、助け合いながらお互いを高め合う心を身に付けている。</p>	
	<p>将来の進路や自身の適性について考え、目的をもって学習に取り組めるようにする。進路実現のため目標をもって、計画的に学習に取り組む態度を養う。</p>	<p>授業を中心に据えて学習する習慣を付け、授業の予習と復習を大切にするように指導する。</p> <p>自ら学習課題を見つけ、主体的に学習する習慣を身に付けさせる。</p> <p>宿題や課題等の提出を徹底させる。</p> <p>学力推移調査では、各教科ともG T ZのB1以上を目指す。</p> <p>大学進学を前提とし、将来の進路や自身の適性について考え、目標をもって学習に取り組めるようにする。</p> <p>日々の家庭での学習内容を充実させるため、毎日2時間以上の学習を習慣化させる。</p>	A	B	<p>学力推移調査のG T Zは、国語、数学、英語ともB2であり、3学年では最も高く、Sランクの生徒は4名いる。</p> <p>Aランクの生徒数も昨年と同数いるので、学習量が増え、学習の質が向上すると更なる学力アップが期待できる。</p>	<p>学習への積極性が向上している生徒が増えつつある。ただ、学習に取り組む姿勢が二極化してきている部分もあるので、大学進学や自己の将来像を見据えた学習ができるように指導し、「中だるみ」の課題を克服したい。</p> <p>成績上位者の成績が更に伸びるように指導</p>

		中高一貫のメリットを生かし、各種コンテストや検定に積極的に参加させる。			組んでいる生徒は14%で、昨年度(11%)より少し向上した。ただ、高校進学に向けてまだまだ家庭での学習時間が不足している。最高学年でありながら、家庭学習の時間が3学年で最も少ないのが課題である。	していきたい。授業を中心に据えて新しい大学入試に対応できる学力を身に付けさせたい。	
高 校 第1学年	高校生としての規範意識と、中高一貫の5期生として、責任を持った行動のとれる生徒を育成する。	挨拶の励行と時間厳守の習慣を身に付けさせる。また、学校や社会のルールを守る規範意識を養い、実践できる力を付けさせる。正当な理由なく遅刻・欠席をしないよう基本的な生活習慣について指導する。「早寝、早起き、朝ごはん」を督促する。90%以上の生徒が朝食を摂るように指導する。	B	B	元気に挨拶ができる。清掃活動にも熱心に取り組んでいる。ルールやマナーについては84%の生徒がよく守っていると答えている。遅刻、欠席については特定の生徒が繰り返している。スマートフォンやゲーム機を1日3時間以上使用している生徒が81%に上り睡眠不足、家庭学習の習慣がないなどにつながっていると思われる。	規則正しい生活習慣の確立ができるようにスマートフォンやゲーム機を使用する時間の見直しなど時間の使い方の指導をしていきたい。学校行事だけでなく校外の活動もアナウンスをし、積極的にチャレンジすることを促していきたい。	基本的な生活習慣の確立と社会性の育成に継続的に取り組み、生徒の意識は高まってきている。異年齢の交流を積極的に行ってもらいたい。大学入試への意識付けと学力向上に取り組み、成果をあげている。
		学級活動、学校行事や校外活動への積極的な参加を促し、集団行動を通じて仲間づくりの大切さを認識させ、社会性やコミュニケーション力を養う。	B		積極的に参加している生徒は44%であった。来年度は中心学年となる。行事などは自分たちが運営していくという意識をもたせる必要がある。		
	自己を見据えた進路目標の実現に向け、様々な学習活動に積極的に取り組む姿勢を育成する。	授業や家庭学習の大切さを理解させ、授業の予習復習を継続的に取り組み基礎学力の定着を図る。また、模擬テストのやり直し及びデータ分析で自己の学力を把握させる。課題やレポート等の提出を徹底させる。	B	B	B 平日の家庭学習時間が2時間以上の生徒は11%しかいないが、昨年度の1年生より3ポイント増えている。家庭学習の大切さをHRで根気強く伝えてきた成果と思われる。	規則正しい生活習慣の確立と同様、継続的に指導していきたい。模擬テスト、定期テストのやり直しを引き続き指導していきたい。	
授業やホームルーム活動、SAW、進路講演会などを通じて、生徒全員に目標を設定させ、積極的に学習に取り組む態度を養う。各種コンテストや検定に積極的に参加させる。	A	B 国公立大学進学志望の生徒は61%で昨年度より大幅に減少した。できる限りしっかりと学習して進路を決めたいとする生徒が64%しかおらず、楽をして進路を決定したいとする生徒が多い傾向にある。しかし、探究活動においてはどの学年よりも積極的に活動しており、授業時間外も自ら進んで取り組んでいると答えた生徒が91%いた。	進路ホームルーム、講演会などを通じ、進路目標をしっかりとらせ、進路実現につなげたい。				
高 校 第2学年	自己の行いを客観的に捉えることができるとともに、周囲との関係を理解し規律ある行動のとれる生徒を育成する。	挨拶の励行と積極的なコミュニケーションの習慣を育む。学校や社会のルールを守ることの大切さについて理解させ、実践できる力を養成する。正当な理由なく遅刻・欠席をしないよう基本的な生活習慣について指導する。「早寝、早起き、朝ごはん」を督促する。90%以上の生徒が朝食をとるように指導する。	B	B	元気に挨拶ができる。清掃活動にも熱心に取り組んでいる。ルールやマナーについては85%の生徒がよく守っていると答えている。このことは昨年より10ポイント向上している。遅刻・欠席については特定の生徒が繰り返している。	規律正しい行動がとれるよう学年集会を通じ折りに触れて啓発を続けていく必要がある。基本的な生活習慣の確立ができるように家庭の協力を得ながら地道に継続して指導していく必要がある。	学校行事や学級活動をとおりして社会性や規範意識が向上しており、今後も継続的な指導が望まれる。中・高一貫の青翔中学・高等学校の生徒として世間の注目を浴びていることを自覚させ、より高い進路目標を持たせ、その実現を図ることができるよう指導に当たってもらいたい。
		クラスでの活動および部活動や学校行事への積極的な参加を促し、社会性を養成する。自らの言動に責任を持ち、相手を思いやる態度や行動がとれるよう育成する。	A		積極的に参加している生徒は51%であった。中心学年として率先して取り組み、下級生を牽引している生徒の姿が見られた。	学校行事などを通じ仲間とともに自ら考え動く機会を経験することにより社会性を育てていきたい。	
	進路目標の実現に向けて、様々な学習活動に積極的に取り組むことができる生徒を育成する	授業や家庭学習の大切さを理解させ積極的に取り組む姿勢を育成し、授業の予習・復習を継続的に取り組み基礎学力の定着を図る。また、模擬テストのやり直し及びデータ分析で自己の学力を把握する。特に理科・社会の取組の重要性に気付かせる。校外模試等において、各教科の全国平均偏差値5	B	B	B 平日の家庭学習時間が2時間以上の生徒は33%しかいなかったが、意欲的に学習に取り組む生徒もおり、他の生徒の良い刺激となることを期待している。定期テスト、模擬テストのやり直し、授業の予習・復習の大切さを伝え継続的に取り組ませていきたい。	進路ホームルーム、講演会などを通じ、早期に進路目標を立てること、進路実現のために日々の学習に計画を立てることを継続的に指導し、自ら進んで学	

		3以上を目指させる。 授業やホームルーム活動や面談を通じて、またオープンキャンパスにも積極的に参加を促し、進路の目標を設定させる。さらに第一希望大学の合格に向けて、学習計画を立て粘り強く取り組める力を養成する。	B			習に取り組む姿勢を育てていきたい。 スマートホンやゲーム機を使用する時間を減らすことで学習時間、睡眠時間の確保できる。時間の使い方の指導をしていきたい。
高 校 第3学年	最高学年としての自覚を持たせ、自立と自律を促し、責任ある行動を実践させる。集団への帰属意識の確立を促し、社会の一員となるに向けて、人間としてさらなる成長を図る。	最高学年としてリーダーシップを発揮し、積極的に高校生活を送り、下級生の模範となれるよう自覚を促す。 正当な理由なく遅刻・欠席をしないよう基本的な生活習慣について指導する。 「早寝、早起き、朝ごはん」を督励する。90%以上の生徒が朝食をとるように指導する。	B	B	A	平日の学習時間を3時間以上確保できている生徒が72%であった。昨年より6.5%上昇している。その反面睡眠時間が5時間未満の生徒が22%おり、睡眠不足が懸念される。また、朝食を食べないまたは食べないことが多い生徒が6%おり、その理由が「時間がない」と答えている。
		学校行事を通して、学校や社会のルールやマナーについて考える機会を設け、一社会人として求められる規範意識と人間力の養成を図る。指標は、充実した高校生活を送れたと考える生徒の割合を80%以上とする。	A			青翔に入学して良かったと答える生徒が昨年に引き続き90%を超えている。日常的に悩みも多く抱えており、大学入試に対する不安からストレスの原因を勉強と挙げる生徒が43%であった。
	進路目標の実現に向けた高い意識の養成と取組を実践し、個々の生徒の進路希望を尊重し、自己実現が可能な進路選択を援助する。	授業・HR・集会等の機会を利用し、生徒たちの進路実現に向けた意識を喚起する。また、面談等を充実させ、生徒の進路目標に合った指導を行う。コロナウィルス感染拡大の影響が極力出ないように指導する。 ステップアップ講座などの進路対策学習の継続的な取組を促し、積極的な姿勢で学習させる。進路の第一希望を実現する生徒の割合を80%以上、国公立大学への進学率が70%以上となることを目指す。	A	A	担任面談も適切に実施できており、保護者との情報交換ができています。生徒の悩みについても保護者と協力して対応できています。 講座については積極的に受講し、受講内容を復習することを促してきた。国公立大学を志望している割合は73%であり、実現を目指して最後まで頑張るよう指導している。	3年生は家庭学習の時間はきっちり確保されている。平日でも4時間以上の学習時間を確保している生徒が34%いる。睡眠時間の不足はスマートホンやゲーム機を使用する時間を減らすことで確保できる。時間の使い方の指導をしていきたい。 「青翔で良かった」という思いを持ってくれた生徒が多かった。この伝統を後輩達に引き継いで行けるように改善を続けていきたい。 6年制3期生として満足できる成果を上げてきている。良い伝統として引き継がれていくよう指導していきたい。 個々の進路実現に応じた指導について細かなさされている。精神面の弱さが危惧される。自信つけさせる指導法を模索していきたい。
						最高学年としての自覚を持ち、下級生の模範となっている。特に、中学生に対しては優しく、ていねいに指導してくれている。 受験への重圧などから、睡眠不足の実態がある。健康を維持しつつ受験に対する準備が効果的にすすむように、学校と保護者が協力して、取組をすすめたい。 進路目標を実現させるための継続的なきめ細かい指導が行われており、その成果が、今後も大いに期待できる。